アルゼンチンマツイカ　南西大西洋

Argentine Shortfin Squid, *Illex argentinus*

管理・関係機関

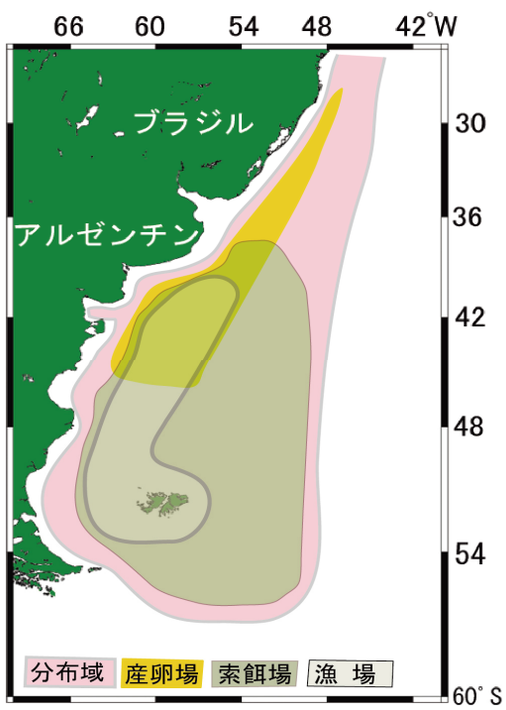
1900-2005 年：南大西洋漁業委員会（SAFC）
2006 年以降：アルゼンチン政府および英国政府がそれぞれの自国管理水域内で管理

生物学的特性

■体長・体重：外套長 25 cm、体重 480 g 程度
■寿命：1 歳
■成熟開始年齢：約 8 ～ 12 か月
■産卵期・産卵場：1 年中・主に秋から冬、アルゼンチン沖大陸棚斜面域
■索餌期・索餌場：アルゼンチン沖大陸棚上
■食性：中深層性魚類、オキアミ類、端脚類
■捕食者：メルルーサ（幼イカ期）、海鳥など

利用・用途

するめ、塩辛、乾燥珍味、まぐろはえ縄の餌など



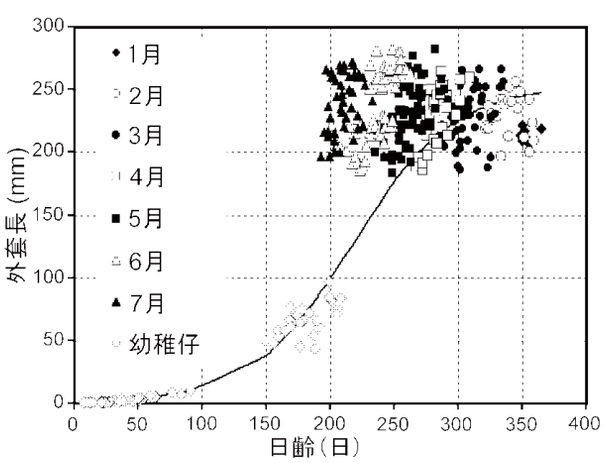
アルゼンチンマツイカの分布図

漁業の特徴

現在の主要な漁業国は、アルゼンチン、台湾、中国、韓国等である。1970 年代に沿岸国のアルゼンチンなどによって年間数千トンが漁獲されていたが、1980 年代に入りポーランド、日本などの遠洋漁業国のトロール船による本格的な操業が開始された。1980 年代の半ばに日本、台湾および韓国のいか釣り漁船が操業を開始した。現在でもいか釣り漁船による漁獲がほとんどである。2007 年以降、日本のいか釣り漁船は完全撤退している。本種の盛漁期は南半球の夏から秋（2 ～ 6 月）で、主漁場にアルゼンチン EEZ およびフォークランド FICZ（暫定保護海域）内であるが、一部隣接する公海域にも形成され、季節とともに南北に移動する。

漁獲の動向

公海域も含めた総漁獲量は 1980 年代後半から増加し、1987 年以降 2003 年までおおむね 40 万～ 60 万トン前後で安定し、1997、1999、2000 年には 80 万～ 100 万トン近くに達した。2004 年には約 17 万トンに低下したが、2006 ～ 2008 年に 70 万～ 90 万トン以上に急増し、公海を除くアルゼンチン EEZ およびフォークランド FICZ 内での漁獲量も 30 万トンを超えた。総漁獲量は 2009 ～ 2011 年に 20 万トン前後に再び減少したが、2011 年には増加傾向となって 30 万トンを超え、2014 年は 86 万トン、2015 年には 100 万トンを超えたと推定される。このように、2015 年までは高い水準を継続していたが、2016 年漁期にアルゼンチン海域およびフォークランド（マルビナス）海域で漁獲量は激減し、アルゼンチン EEZ 内の漁獲量は 6.0 万トンと前年の同時期の半分であった。2018 年は 10 月までの集計では 10.8 万トンと回復傾向にある。我が国の漁獲量は、1990 年代は約 10 万トンで安定していたが、2001 年以降減少し、2007 年のいか釣り漁船撤退以降 0 である。



夏季産卵群の雌の成長曲線
各点は生まれ月及び幼稚仔期（◇）を示す

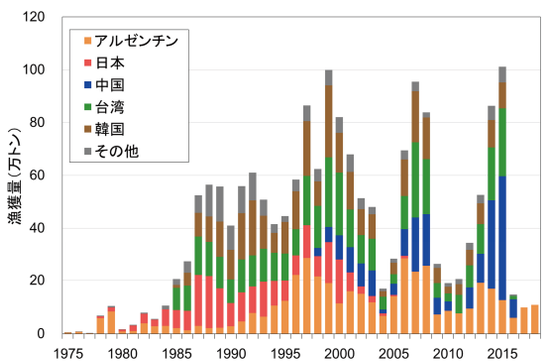
Copyright (C) 2019　水産庁　水産研究・教育機構　All Rights Reserved

資源状態

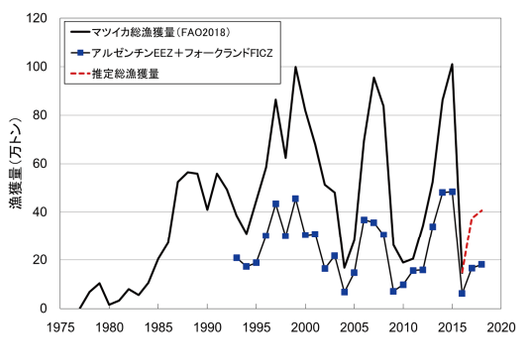
アルゼンチン政府が公表しているアルゼンチン EEZ 内の月別の漁獲量の変遷をみると、2009 ～ 2012 年にかけての低い水準から、2013 年以降にかけて増加傾向が示され、2014 年、2015 年に豊漁となった。しかし、2016 年には来遊資源が減少し、アルゼンチン EEZ 内の漁獲量は激減している。操業データに基づく CPUE など近年の資源水準を示すデータは公表されていない。しかし総漁獲量がおよその資源水準を表すと考えると、2000 年以降、わずか数年間で年間漁獲量が 15 万トンから 100 万トンまで変化し、近年の資源変動が極めて激しく不安定になっていることを示し、2016 年の総漁獲量の激減から、現在の資源状態は回復傾向にあるものの低位と判断される。

管理方策

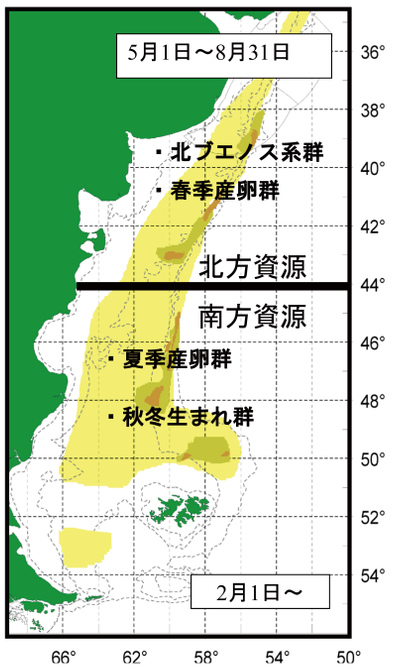
本資源の大部分はアルゼンチン EEZ および英領フォークランド FICZ 海域内に分布し、管理上は便宜的に南緯 44 度線で区切って、南方資源と北方資源に分けて異なる管理方策をとっている。北方資源は、実質アルゼンチンのみが管理し、前年の漁獲実績による入漁隻数制限と漁期制限（5 月 1 日～ 8 月 31 日まで）による努力量管理方策を実施している。一方、南方資源は、SAFC に基づき英アニ国が共同で、前年の漁獲実績による入漁隻数制限と解禁日（2 月 1 日）制限による努力量管理のほかに、再生産管理を実施している。再生産管理とは、本種が単年性（年魚）であり、世代が重複することがないことから、ある年の資源はすべて前年の産卵親イカから生まれてくる再生産関係がある程度成立すると仮定し、来漁期の資源に回す親を一定量確保する施策である。相対逃避率（目標値 40%）に加え、絶対逃避量（4 万トン）を設定し、漁獲量を管理している。



1975 年からの各国のアルゼンチンマツイカ漁獲量の変遷



アルゼンチン EEZ および英領フォークランド FICZ 内での漁獲量と総漁獲量の変遷（2018 年はアルゼンチン EEZ 内漁獲量から推測）



本種の季節発生群（系群）と南緯 44 度を境とした資源分割管理

アルゼンチンマツイカ（南西大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位（2018 年漁期推定）
資源動向	不安定
世界の漁獲量（最近 5 年間、FAO）	14.7 万～ 101.1 万トン 最近（2015）年：101.1 万トン 平均:57.7 万トン（2012 ～ 2016 年）
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	0 トン ※ 2007 年以降操業無し
管理目標	逃避率一定となる再生産管理：相対逃避率 40%（ただし、資源水準が低い近年の場合は、絶対逃避量 4 万トンを適用）
資源評価の方法	不明
資源の状態	不明
管理措置	アルゼンチン EEZ および英領フォークランド FICZ が管理対象（公海は除く） 【南方資源（FICZ を含む）】入漁隻数制限、解禁日（2 月 1 日）および終漁期（逃避率管理によってアルゼンチン EEZ 内および英領フォークランド FICZ 内それぞれリアルタイムに決定） 【北方資源】入漁隻数制限および漁期制限（5 月 1 日～ 8 月 31 日）
最新の資源評価年	―
次回の資源評価年	―

Copyright (C) 2019　水産庁　水産研究・教育機構　All Rights Reserved